

第2期採択者が成果発表

木材研究者へ助成事業

朝日ウッドテック財団

朝日ウッドテック財団(海堀芳樹代表理事)はさきごろ、朝日ウッドテック本社で研究助成事業における第2回研究成果発表会を開催した。同財団は、2023年度から木材の加工・利用技術分野の学術研究に取り組む研究者を助成してきた。今回は24年度、第2期の採択者が研究成果を発表した。

中島史郎宇都宮大学教授は「地域の木材産業活性化に資する接着剤を用いないCLTの開発」と題し、接着剤でなくビス接合などの機械接合によるCLTの製作と面内せん断性状(耐力、剛性、靱性)などを評価した。

徳本雄史宮崎大学准教授は「常緑広葉樹シイ類2種間交雑個体の材形質とゲノム情報との関連性」と題して、シイを対象にゲノムを解析し、近縁種(スタジイ、ツブラジイ)の交雑種と純系の割合や、発現の違いに関連する遺伝的要因を探り、材

密度に関連する候補遺伝子も特定した。

石岡瞬大阪大学助教は「木材パルプ変性による、透明・高強度の新規構造材の創製」を発表。TEMPO酸化による変性処理を軸に木材パルプを加工することで、透明でアルミニウム合金並みの高強度となるシート材料について、既存成果よ



中島教授の発表

選考委員長を務めた川井秀一京都大学名誉教授は「1年という短い研究期間にもかかわらず幅広い成果が集まった。将来的に社会で実用化される可能性があり、この度の研究成果が生かされることを期待したい」と総評した。

同財団は朝日特殊合板(現・朝日ウッドテック)の創業者である故・海堀黄造氏が、経済的に恵まれない優秀な学生、生徒に奨学資金を給付し、有為の人材育成と教育の振興に寄与することを目的に、基金を寄付すると

の遺言に基いて1975年に設立された。これまで51年の活動期間で延べ637人に2億9000万円の返済不要の奨学金を給付している。木材研究者への研究助成はこの活動を拡大してのもので、木材を通じた地球環境の保全と資源循環型社会の形成に貢献することも目指す。